

『国際人間科学部ファクトブック』

(強み・特色)

-
1. 他大学・他学部にはない独自性 (強み) . . . P 1
 2. 最近における特記事項 . . . P 5

1. 他大学や他学部等にはない独自性（強み）

神戸大学は、「持続可能な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学」へと発展していくため、平成 26（2015）年より三つの機能強化改革に着手した。国際人間科学部は、その改革の一環として、神戸大学の教育戦略目標である「文理双方の分野でグローバルの舞台で活躍できる実践型グローバル人材の育成」を達成するため、平成 29 年 4 月、国際文化学部と発達科学部を再編統合することで発足した。

二つの学部はいずれも、四半世紀前に、当時の社会状況に即して設置された学際系学部である。国際文化学部は、動き始めたグローバル化にいち早く対応し、数多くの海外協定校を開拓し、交換留学プログラムや実習型の海外研修を多数実施しながら、深い文化理解と自在なコミュニケーション能力を育成してきた。一方の発達科学部は、人間の豊かさが議論された社会情勢を背景に、乳幼児期から高齢期にいたる全生涯を対象に人間の発達とそれを支える環境を捉え、様々な専門的知見を土台に実践的な問題解決能力を涵養してきた。国際人間科学部は、これら二つの学部が培ってきた強みと特色を活かし、今日の時代状況に合わせてそれらを融合させることで、「深い人間理解」と「他者への共感」をもって地球規模の課題と向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献できる「協働型グローバル人材」を育成することを目的としている。

◆ 国際人間科学部の教育上の特色

1. グローバルな発信と課題解決のための基礎

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、また ICT による情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身に付けます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能や様々な問題に実践的に対応する能力を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を修得します。

2. 実践的なグローバルの体験

グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定して、海外研修と国内外でのフィールド学修に参加します。GSP を通じて得た具体的な

体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

3. 多角的視点からの専門的知識の修得

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」の観点から、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これらの観点と連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングコモンズなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業（講義、演習、実験・実習）においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。



◆ グローバル・スタディーズ・プログラム

グローバル・スタディーズ・プログラムは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的として、本学部の学生全員が海外研修とフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外の多くのフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

GSP の流れ



各GSコースの個別プログラムは、次のとおりです。

(令和6年4月1日現在)

【実践型GSコース】

プログラム名称	派遣先
韓国で多様性と共生を体感する旅	韓国
イタリア・ナポリ海外研修プログラム	イタリア
発展途上国の開発問題と社会制度：現地調査とディスカッション	カンボジア等
タイ・ラオス・ミャンマー国境フィールドトリップ	タイ
EDUCULT スタディツアー：ウィーンで学ぶ文化政策,アートマネジメント,芸術教育	オーストリア
フランスとベルギー：文化研修プログラム	ベルギー・フランス
米国西海岸で学ぶ現代スポーツの諸相	米国
コーヒーの生産から販売を通して考える持続可能な農業と社会のあり方	(オンライン)
ハンガリー文化研修プログラム	(オンライン)
等、計23プログラム(令和5年度実施実績)	

【研修型GSコース】

プログラム名称	派遣先
梨花女子大学校言語教育院：韓国語と文化体験	韓国
国立台湾大学：中国語と台湾文化	台湾
フィリピン・セブ：英語研修	フィリピン

ウェスタン・シドニー大学	オーストラリア
カンタベリー大学付属英語学校：英語	ニュージーランド
カナダ・トロント大学：夏季海外研修	カナダ
グルノーブル・アルプ大学：フランス語	フランス
ペルージャ外国人大学：イタリア語とイタリア文化	イタリア
海外オンライン教材を活用したアカデミックコース	(オンライン)
等、計 14 プログラム (令和 5 年度実施実績)	

【研修型 G S コース (国内フィールド学修)】

プログラム名称	派遣先
「市民の科学」プログラム：サイエンスショップ	兵庫県
学習支援と地域をつなぐプログラム：認定 NPO 法人まなびと	兵庫県
神戸を拠点に社会とアートをつなぐプログラム：C.A.P	兵庫県
キュレーションサポートプログラム：薄井憲二バレエ・コレクション展	兵庫県
小学生自然体験学習支援プログラム：兵庫県立南但馬自然学校	兵庫県
ブラジルにつながる子どもたちへの母語・アイデンティティ支援プログラム	兵庫県
「子どもの貧困」について考えるプログラム：神戸大学サテライト施設あーち	兵庫県
京都美山：京都美山でまちづくりを学ぶ	京都府
文化遺産・環境・観光・地域振興プログラム：奄美群島フィールド学修を通じて	鹿児島県
等、計 28 プログラム (令和 5 年度実施実績)	

【留学型 G S コース】

プログラム名称	派遣先
高麗大学校：インターナショナル・サマー・キャンパス (中期)	韓国
西オーストラリア大学：英語研修 (中期)	オーストラリア
ブリティッシュ・コロンビア大学：グローバル・シティズンシップと英語研修	カナダ
アラバマ大学：英語・文化研修	米国
UC バークレー：BGA プログラム (中期)	米国
マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク：ドイツ語・文化研修 (中期)	ドイツ
部局間交換留学：ヘルシンキ大学	フィンランド
部局間交換留学：中央民族大学校	中国
部局間交換留学：マンチェスター大学	英国
部局間交換留学：グルノーブル・アルプ大学	フランス
部局間交換留学：カーティン大学	オーストラリア
等、中期留学 7 プログラム、他部局間交換留学及び全学交換留学 44 プログラム (令和 5 年度実施実績)	

2. 最近における特記事項

○シンポジウム開催

【平成 29 年度実施】

開催学科	シンポジウムの名称	開催期間	開催場所
グローバル文化学科	公開シンポジウム 「アフリカにおける健康と社会:人間らしい医療を求めて」	平成 29 年 12 月 16 日	JICA 関西
発達コミュニケーション学科	国際交流シンポジウム「異文化間 / 多文化間カウンセラー人と文化:他者を理解するということ」	平成 30 年 1 月 8 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
環境共生学科	リアウ大学ー神戸大学の交換型サマースクール 日本と東南アジアの ESD 実践をつなぐ ～グローバルな視点で実践研究・教育の可能性を問う～	平成 29 年 9 月 27 日～10 月 1 日 平成 29 年 10 月 1 日 (クロージング・セミナー)	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス・篠山市他 国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
環境共生学科	11th International Symposium Exploring the Global Sustainability(国際環境生物資源シンポジウム)	平成 30 年 3 月 20 日～21 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
子ども教育学科	韓国・済州大学校との国際交流プログラム	平成 29 年 11 月 24 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス

【平成 30 年度実施】

開催学科	シンポジウムの名称	開催期間	開催場所
グローバル文化学科	無形文化遺産の保存と活用 ーグローバル化の中でローカルなもの の価値を問い直すー	平成 30 年 12 月 2 日	国際人間科学部鶴甲第一キャンパス
発達コミュニケーション学科	Casa Verdi に見る人生の円熟とは	平成 30 年 9 月 5 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
環境共生学科	ICAMS satellite Workshop	平成 30 年 7 月 2 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
環境共生学科	Second Interdisciplinary and Research Alumni Symposium iJaDe2018 (第 2 回 iJaDe2018 学際研究シンポジウム会議)	平成 30 年 9 月 3 日～6 日	北野プラザホテル六甲荘・国際人間科学部鶴甲第二キャンパス

	(使用言語 英語)		
環境共生学科	5th Utility of Genome and Chromosome Information for Environment (U-GCI) 第 5 回環境に資するゲノム・染色体情報の活用 (使用言語 英語)	平成 31 年 2 月 21 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
子ども教育学科	カール・ノイマン氏講演会「生の合一としての平和 — フリードリヒ・フレーベルの「人間の教育」における隠れたカリキュラムとしての平和教育—	平成 30 年 9 月 12 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス

【令和元年度実施】

開催学科	シンポジウムの名称	開催期間	開催場所
グローバル文化学科	連続トーク「グローバル文化学の現場」	令和元年 10 月 16 日, 11 月 27 日, 12 月 20 日, 令和 2 年 1 月 24 日, 2 月 4 日, 3 月 6 日	国際人間科学部鶴甲第一キャンパス
環境共生学科	第 7 回 環境に資するゲノム・染色体情報の活用 Utility of Plant Genome and Chromosome Information for Environment (使用言語 英語)	令和元年 9 月 23 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
環境共生学科	大学生のためのグローバルキャリアパスセミナー (使用言語 英語)	令和元年 11 月 22 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス
環境共生学科	シンポジウム「グローバルな視点で実践研究・教育の可能性を問う」及び日本とインドネシアの交流プログラム (Asia Fieldwork Course)	令和 2 年 1 月 16 日～1 月 25 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス他
子ども教育学科	日本における家族支援の課題を探る:イギリスの子ども・家族支援からの示唆	令和元年 12 月 24 日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス他
グローバル文化学科	「オンライン・コミュニケーション教育・研究をふりかえって一留学・海外研修プログラムの新展開—	令和 2 年 3 月 30 日	オンライン (Zoom)

【令和2年度実施】

開催学科	シンポジウムの名称	開催期間	開催場所
子ども教育学科	Educational reform and teacher education	令和3年1月26日	国際人間科学部鶴甲第二キャンパス/ Google Meet
GSP オフィス	グローバルキャンパスプログラム:神戸大学の国際化を提言する	令和2年3月4日	オンライン (Zoom)

【令和3年度実施】

開催学科	シンポジウムの名称	開催期間	開催場所
GSP オフィス	在日コリアンはいかに学ばれてきたか：日韓歴史教育現場の対話から	令和3年9月25日	ハイブリット（一般社団法人コリア教育文化センター+Zoom)
グローバル文化学科	国際協力が深める文化理解・イスラーム地域の難民支援・平和構築・文化交流の最前線	令和3年10月30日	オンライン (Zoom)
GSP オフィス	外交の現場に立つ～日欧が拓くインド太平洋の未来～	令和4年2月17日	オンライン (Zoom)
子ども教育学科	イングランドにおける家族支援・保護者支援：The Meadows Children and Family Wing (MCFW) の取り組みから	令和4年3月21日	オンライン (Zoom)

【令和4年度実施】

開催学科	シンポジウムの名称	開催期間	開催場所
子ども教育学科	Finding ways to future development of progressive practice : Curriculum, assessment and teacher education in the UK	令和5年2月7日	F257 と Zoom オンラインの併用

○特別聴講学生の受入

国際人間科学部では、外国の大学等との学術交流協定に基づき、多くの留学生を特別聴講学生として受け入れています。

各年度の受入数は、次のとおりです。

	2017 年度		2018 年度		2019 年度		2020 年度		2021 年度	
	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月	4 月	10 月
受入人数	28	36	23	29	23	40	1	0	オンラ イン 6	オンラ イン 4

	2022 年度		2023 年度	
	4 月	10 月	4 月	10 月
受入人数	28	34	27	44